



飛沫防止の徹底

ふ頭入場時の体温測定 (サーモグラフィー)

施設内の適切な換気、高頻度接触部位の定期的な消毒

港湾ガイドラインを遵守した 京都舞鶴港の取り組み

京都舞鶴港では、(公社)日本港湾協会「クルーズ船が寄港する旅客ターミナル等における感染拡大予防ガイドライン」に基づいた感染対策を実施しています。このガイドラインは、クルーズ船の寄港に際し、旅客ターミナルなどにおけるクルーズ船の旅客や乗組員、旅客ターミナルなどで従業者間等の感染を防止するための対策をとりまとめたものです。

〈主な取り組み〉

- ◆乗船者とふ頭関係者との動線の分離
- ◆施設利用者に対するマスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンスの維持を周知
- ◆船内で感染事例が発生した場合の緊急連絡体制の構築、下船動線の分離
- ◆乗船客とふ頭関係者の体温測定、施設内の十分な換気 など
- ※当面の間、事前に登録のあった関係者以外の人はふ頭への立ち入りをお断りしています。

※飛鳥IIの例



パブリックエリアの消毒

乗客定員やレストランなど船内施設の座席数を従来の半分に

乗船前には事前にPCR検査キットが届き検査

船舶ガイドラインの遵守と 独自の取り組み

日本のクルーズ船社は、(一社)日本外航船協会「外航クルーズ船事業者の新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を遵守しています。さらに、ガイドラインの遵守だけでなく、船会社独自にそれ以上の安全対策を実施しています。船内の衛生管理を徹底し、万が一船内で感染者が発生した場合でも、クラスターを発生させないことを目的とした各種対策をとっています。

〈主な取り組み〉

- ◆乗船客は事前に PCR 検査を受けて結果が低リスクの人のみ乗船。高リスク・再検査は乗船不可。
- ◆船内各所にサーマルカメラを設置し、体調不良者を早期に把握
- ◆体調不良者が出た時点で船内イベントと船内施設の使用を中止し、本人と濃厚接触者は船内で隔離(それ以外の乗客は自室待機)
- ◆船内の換気設備には、10分に1回外気と入れ替わるなどの対策を導入 など



クルーズ船が 1年ぶりに舞鶴に

コロナ対策を徹底し、入港

◆京都舞鶴港への国内クルーズ船の入港が再開

近年、京都舞鶴港では、春と共にクルーズのシーズンが訪れ、大小さまざまなクルーズ船が港に彩りを与えてくれました。

しかし、令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていた30回の寄港は全てキャンセルとなり、港の賑わいに大きな影響を与えました。

現在でも、世界中の国が相互に入境規制を実施しており、日本では外国のクルーズ船の運航が中断されています。

一方で、日本のクルーズ船は、国土交通省監修のガイドラインや船会社独自の安全対策を講じた上で、昨年の10月から、日本に住んでいる人を対象に、国内の港を巡るクルーズが再開されています。

日本在住のお客様のみで、当面は乗客全員が事前にPCR検査を受け、結果が低リスクの人のみ乗船するなど、徹底した感染症対策を講じての再開となっています。

京都舞鶴港では、こうした船会社の安全対策を十分確認し、また港での安全対策をしっかりと行った上で、国内クルーズ船の受け入れを再開しました。

2021年 入港スケジュール(5月1日現在)

	船名	入港日	入港 / 出港時刻
1	飛鳥II	4月3日(土)	9時 / 17時
2	飛鳥II	4月18日(日)	9時 / 17時
3	にっぽん丸	5月3日(祝)	中止
4	ばしふいっくびいなす※	7月30日(金)	9時 / 16時
5	ばしふいっくびいなす※	8月1日(日)	14時 / 16時
6	飛鳥II	9月10日(金)	8時 / 16時

※舞鶴発着クルーズ

◆クルーズ船「飛鳥II」が4月に 京都舞鶴港へ入港

久しぶりの入港で、ふ頭付近には見物に訪れる人も多く見られました。中には、感染症対策について不安を感じられる人もいると思います。

徹底された感染症対策とは、具体的にどんな対策が取られているのでしょうか？



▲飛鳥II見送りの様子

◆安全を第一に、一歩ずつ

京都舞鶴港へのクルーズ船の寄港が再開するにあたり、3月30日に「京都舞鶴港クルーズ船寄港説明会」を開催し、京都府・舞鶴市・船会社から、船内・旅客ターミナルなどでの感染症対策について、日頃クルーズ船の受け入れに協力いただいている皆さんへ説明。説明会の動画は市公式YouTubeチャンネルで公開しています(左下コードからアクセス可)。

安全を第一に、市民の皆さんに安心いただき、以前の様な港の賑わいを取り戻すために、一歩ずつ着実に進めていきます。

《みなと振興・国際交流課》



▲説明会の様子